

1 学校教育目標							
教育目標……親和協力の校訓のもと、心身ともに健やかで、豊かな人間性と主体性を持ち、広く社会に貢献できる人物を育成する。 中・長期目標…基礎学力の定着及び基本的生活習慣の確立、人間関係づくりを基盤にしたコミュニケーション能力の育成 チャレンジ目標「豊かな人間関係づくりを通じた規範意識の向上」							
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)							
(平成20年度は記入不要)							
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題							
基本的生活習慣の未確立及びコミュニケーション能力の不足から、自己否定感をもち人間関係の構築が難しい傾向が見受けられるため、豊かな人間関係づくりの育成を図る。 中学校段階までの学力が身に付いておらず高校卒業後の進路意識が薄い生徒が多いため、基礎学力の定着に向けての方策及び高校3年間を見通したキャリア教育の充実を図る必要がある。 地域に愛される学校として、情報発信をはじめ開かれた学校づくりに向けた積極的な取組を進める。							
4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学 習 指 導	基礎学力の定着と実力の養成	教育課程を見直し改善する。	4:教育課程については十分改善された。 3:教育課程については、概ね改善された。 2:教育課程は見直されたが、ほとんど改善されなかった。 1:教育課程はほとんど見直されなかった。	4	・教育課程検討委員会を8回実施し、クラス減を視野に入れた検討を行った。今後は新学習指導要領を視野に入れた検討が必要である。 ・生徒による授業アンケート・学校評価は概ね満足できる回答であった。 授業の内容「ちょうどいい・やや高い」:90.9% 興味・関心、進路に応じた選択科目の設置「そう思う・だいたいそう思う」:69%	・教育課程検討委員会、全教科での授業研究、授業参観等、予定どおり行われており、今まで以上に授業改善が進みつつあることが、アンケートの結果でも伺える。	A
		授業研究を推進する。	4:各教科の授業研究に向け、手だて等十分支援された。 3:各教科の授業研究に向け、手だて等概ね支援された。 2:各教科の授業研究に向け、手だて等あまり支援されなかった。 1:各教科の授業研究に向け、手だて等ほとんど支援されなかった。	4	・教科ごとの授業研究・研究協議(全教科年1回以上)や、管理職による全授業担当者の授業参観(年3回)を実施して、授業改善を行った。 ・生徒による授業アンケートでは、授業方法等に関する項目について、8割以上の生徒が肯定的に評価している。 ・保護者による学校評価アンケートにおいても概ね満足できる回答であった。 授業内容の適切度「そう思う・だいたいそう思う」:94.4%		
	学習環境の充実	授業規律を確立する。	4:生徒はチャイムが鳴るまでに授業の準備をして待機していた。 3:多くの生徒はチャイムが鳴るまでに授業の準備をして待機していた。 2:チャイムが鳴るまでに授業の準備をして待機している生徒はどちらかというとなかった。 1:チャイムが鳴るまでに授業の準備をして待機している生徒は少なかった。	3	・授業時以外にも、全校集会時等において指導を行った。 ・生徒の授業アンケート自己評価では高い評価を示しているが、まだ十分とは言えず、今後、教務・教科・学年の連携体制の見直し・改善を図る。 授業アンケートにおける生徒の自己評価 授業への準備「そう思う・だいたいそう思う」:91.6%	・授業を6月と2月に参観したが、生徒は大変落ち着いてきている。 ・授業アンケートの結果において、生徒と教員との評価にギャップがあるのは、教員の目標が高いからと思われる。 ・教室の整理に関しては期間ごとに目標を一つに絞って取り組ませるとよい。 ・朝の読書では、生徒が多様な種類の本を読んでいるということが評価できる。 ・授業規律の確立に向けて、生徒の自主性をさらに育成していく必要がある。	B
		朝の読書を推進する。	4:生徒は主体的に読書していた。 3:ほとんどの生徒は、本を準備し、主体的に読書していた。 2:多くの生徒は、本は準備しているものの、あまり読書していなかった。 1:本の準備をしている生徒は、どちらかというとなかった。	3	・ほとんどの生徒が真剣に読書に取り組んでおり、落ち着いた雰囲気が出てきた。 ・生徒の実態に応じて、読書の在り方の見直し・改善を図る。		
		教室内の整理を徹底する。	4:いつも机上・机周辺・ロッカーの中等が整理され、学習環境は充実していた。 3:概ね机上・机周辺・ロッカーの中等が整理され、学習環境は充実していた。 2:机上・机周辺・ロッカーの中等の内、一部整理が行き届いていなかった。 1:机上・机周辺・ロッカーの中等、整理が行き届いていなかった。	2	・教員と生徒による自己評価では、両者間で認識に大きな差がある。今後の検討課題である。 教室内の整頓「そう思う・だいたいそう思う」 教員:35.3% 生徒:68% ・学習環境の整備について、様々な機会を捉えて啓蒙を図り、生徒の意識を教員へ近づける。		
開かれた学校づくりに向けた情報発信の推進		授業公開・体験入学を充実させる。	4:授業公開・体験入学とも充実していた。 3:授業公開・体験入学とも概ね充実していた。 2:授業公開・体験入学の内、どちらか一方は充実していた。 1:授業公開・体験入学とも、あまり充実していなかった。	4	・体験入学では、新たに体験授業を取り入れた。参加者(中学生・引率教員)を対象に実施したアンケートでは、85.9%が良いという結果であった。 ・授業公開は、年に2回公開週間を設けるなど延べ11日間開催した。参加者は年間延べ30人程度と伸び悩んでおり、実施の時期・方法等について再検討する。	・地域の人々の本校に対するイメージや期待すること等についてアンケートを実施し、その結果についても情報提供していることは、十分評価できる。今後も継続して願っている。	A
		他分掌との連携を図り、ホームページを充実させる。	4:ホームページは、他分掌との連携のもと、充実したものとなった。 3:ホームページは、他分掌との連携のもと、概ね充実したものとなった。 2:ホームページの充実に関して、他分掌との連携はあまりなされなかった。 1:ホームページの充実に関して、他分掌との連携はほとんどなされなかった。	4	・昨年度までの学校HPを見直し、全面改訂を行った。 ・本校の教育活動を生徒の様子を伝えるというコンセプトで情報発信をした。 ・携帯電話用HPの開設、保護者所有携帯電話への配信メールを開始した。 ・学年・分掌が企画する活動を主としてwebに公開した。 ・隔週約1回の更新を進めていたが、3学期は行事等の関係で更新頻度が低下した。今後は更新の在り方を研究する必要がある。		

	・人権意識の確立と人権を守る態度の育成	・学年との連携を図り、全体計画を見直し改善する。	4: 学年との連携を図り、全体計画は十分に見直された。 3: 学年との連携を図り、全体計画は概ね見直された。 2: 学年との連携を図った全体計画の見直しは、あまりなされなかった。 1: 学年との連携を図った全体計画の見直しは、ほとんどなされなかった。	4	・全教員にアンケートをとり、昨年度までの全体計画の大幅な見直しを行った。 ・計画の推進にあたり、学年との連携・協力体制を見直す必要がある。	・アンケート結果や生徒が楽しそうに学校に通っている様子から問題はなないように思われる。引き続き、生徒の人権意識の涵養をお願いする。	B
生徒指導	・基本的な生活習慣の確立	・服装頭髪指導を充実させ、場に応じて身なりを整える自覚を促す。	4: 服装頭髪指導が十分行われ、生徒の自覚が十分促された。 3: 服装頭髪指導が概ね行われ、生徒の自覚がある程度促された。 2: 服装頭髪指導が十分に行われず、生徒の自覚があまり促されなかった。 1: 服装頭髪指導がほとんど行われず、生徒の自覚がほとんど促されなかった。	3	・毎月1回、全校生徒一斉の服装頭髪指導を行った。規則が守られていなかった生徒に対しては、後日、再指導を実施した。再指導でも改善がみられない生徒がごく一部いたが、個別指導により改善を図った。 ・本校の校則や規則に対するアンケート調査結果は保護者・生徒とも適切と指示する割合が高かった。 生徒: 71.8% 保護者: 90.9%	・登下校の生徒の様子を見るに、ごく一部の生徒を除いて大変落ち着いてきている。 ・服装頭髪指導については、一律に厳しくするのはどの学校においても最近難しくなっている。場面に応じた言動がとれるよう引き続き指導をお願いする。 ・春秋の交通安全キャンペーンに毎年交通委員が参加しているが、大変元気がよく、地域の活性化に貢献している。	B
		・登校時の立番により、挨拶等の指導をする。	4: 登校時の立番により挨拶等マナーの向上が十分達成された。 3: 登校時の立番により挨拶等マナーの向上が概ね達成された。 2: 登校時の立番により挨拶等マナーの向上があまり達成されなかった。 1: 登校時の立番により挨拶等マナーの向上がほとんど達成されなかった。	4	・1・2学期当初、また必要時に、教職員と交通委員が校門付近で立番して、挨拶・マナー・服装等の指導を行った。挨拶等はよくできていた。 ・本校のマナーに関する指導の在り方に対するアンケート調査結果は保護者・生徒とも満足できるものであった。 生徒: 79.8% 保護者: 90.9%		
		・昼休み・放課後の校舎内外の巡視によりマナーの向上を図る。	4: 昼休み・放課後の校舎内外の巡視によりマナーの向上が十分達成された。 3: 昼休み・放課後の校舎内外の巡視によりマナーの向上が概ね達成された。 2: 昼休み・放課後の校舎内外の巡視によりマナーの向上があまり達成されなかった。 1: 昼休み・放課後の校舎内外の巡視によりマナーの向上がほとんど達成されなかった。	4	・定期的に月3回、昼休み・放課後に校内外の巡視を行い、マナーの向上を図った。 ・放課後における用のない生徒の居残りはほとんどなかった。 ・本校のマナーに関する指導の在り方に対するアンケート調査結果は前述のとおり。		
		・交通安全立番や自転車点検により交通安全意識を高め、交通マナーの向上を図る。	4: 交通安全意識の高揚が顕著にみられ、交通マナーの向上が十分達成された。 3: 交通安全意識の高揚がある程度みられ、交通マナーの向上が概ね達成された。 2: 交通安全意識の高揚があまりみられず、交通マナーの向上があまり達成されなかった。 1: 交通安全意識の高揚がほとんどみられず、交通マナーの向上がほとんど達成されなかった。	3	・学期に1度の交通安全立番、交通委員と自転車通学生による自転車点検を実施した。 ・交通安全教室を開き、生徒に交通安全の意識向上を図った。 ・春・秋の交通安全キャンペーンに参加し、交通安全の呼びかけを行った。 ・今後は、バイク通学生への安全指導をより一層充実させる。		
・自主性・協調性の育成	・生徒会活動を積極的に推進する。		4: 生徒会活動が十分活性化された。 3: 生徒会活動が概ね活性化された。 2: 生徒会活動があまり活性化しなかった。 1: 生徒会活動がほとんど活性化しなかった。	4	・様々な学校行事について、生徒会執行部が中心となり、企画立案の話し合いを十分行った上で運営できた。特に文化祭においては、一般公開が概ね定着し、約170名の地域の方の来場があった。生徒への事後アンケート(ステージについての満足度)では、昨年度より「よかった」が21%増加している。 ・今後は、クラスマッチ等の運営方法を見直し、執行部だけでなく、より多くの生徒の活躍の場を提供していく。	A	
	・ボランティア活動の推進に努める。	・ボランティア活動の推進に努める。	4: ボランティア活動等が充実していた。 3: ボランティア活動等が概ね充実していた。 2: ボランティア活動等があまり行われなかった。 1: ボランティア活動等がほとんど行われなかった。	4	・生徒のボランティア活動に対する意識は高く、引き続き活動しやすい環境を整えていく。ボランティアの情報提供については、84.9%の生徒が満足している。 ・今後は、一部の関心のない生徒に対するボランティア活動の啓蒙の在り方を検討する。 実施回数 28回、参加人数 延260人 回数、人数ともに前年度とほぼ同じ		
	・部活動の活性化を図る。	・部活動の活性化を図る。	4: 全ての部活動が充実していた。 3: 多くの部活動が概ね充実していた。 2: 一部の部活動は概ね充実していた。 1: 部活動がほとんど充実していなかった。	3	・保護者と生徒で部活動の充実度の認識が違った。 「そう思う、だいたいそう思う」 生徒: 65% (前年度より20.9%増加)、 保護者: 54.5%であった。(前年度より20%減少) ・今後は部活動の指導、環境の整備をより充実させていくとともに、活動内容や成果をさらに広報していく。		
・生徒指導体制の確立	・生徒指導教育相談委員会を毎学期実施し、生徒に関する情報を共有し、生徒理解を深める。		4: 各学年主任、担任、教育相談課と連携し、情報交換が十分に行われた。 3: 各学年主任、担任、教育相談課と連携し、情報交換が概ね行われた。 2: 各学年主任、担任、教育相談課との連携があまり進まず、情報交換が十分に行われなかった。 1: 各学年主任、担任、教育相談課との連携が進まず、情報交換がほとんど行われなかった。	4	・教育相談課と連携し、年間を通して4回実施し、生徒に関する情報の共有、及び生徒理解を図った。必要に応じて、職等で全教職員へ情報提供を行った。しかし、問題の内容によっては共通理解がうまく図れなかった場合もあるため、今後は各学年団との連携強化に努める。	B	
	・保護者やPTA活動との連携を図り、信頼関係を築く。	・保護者やPTA活動との連携を図り、信頼関係を築く。	4: 保護者やPTA活動との連携が十分行われ、信頼関係ができた。 3: 保護者やPTA活動との連携が概ね行われ、信頼関係が概ねできた。 2: 保護者やPTA活動との連携があまり行われず、信頼関係が十分にはできなかった。 1: 保護者やPTA活動との連携がほとんど行われず、信頼関係がほとんどできなかった。	4	・文化祭やPTA交流会等により、保護者やPTA活動との連携が図られた。特に、文化祭においては、保護者によるカレー・うどんの販売、バザーへの協力などにより、連携が一層深まった。 ・さまざまな機会を通して地域に開かれた学校づくりを推進する上で、さらに連携・信頼関係を築く必要がある。		

進路指導	・進路意識の高揚・進路選択能力を育成するキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・諸検査の分析、LHRにおける指導、進路説明会・個人面談等を充実させ進路意識を高揚させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: LHR、説明会、面談等の支援が十分に行われ、進路意識は高まった。 3: LHR、説明会、面談等の支援が概ね行われ、進路意識は概ね高まった。 2: LHR、説明会、面談等の支援があまり行われず、進路意識はほとんど高まらなかった。 1: LHR、説明会、面談等の支援がほとんど行われず、進路意識は高まらなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育全体計画にのっとり、1学年のLHRでは、情報を集め判断する力、自ら課題を発見する力の育成を、2学年では勤労観・職業観の育成を、3学年では自己の生き方を選択する能力や態度の育成を中心として進路意識の高揚を図った。 ・6月に1学年、2月に2学年を対象とした個人面談週間を設置し、3学年は4月から進路決定まで随時個人面談を実施し、生徒一人ひとりの進路に関する連携を深めた。 ・5月の進路説明会では就職希望者、進学希望者それぞれを対象とした講義・演習を実施し、進路選択をする能力、態度の育成に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学への進学者の輩出、課外受講者の増加等、進学指導が充実してきている。 ・在学中に取得できる資格が、高校選択のポイントになる。様々な資格取得について積極的に進めるとともに、中学校での説明会で、取得できる資格についても取得できる資格についてもアピールするとよい。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・能力、個性に応じた指導を充実させ、課外や模擬試験等への積極的な取組みを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 課外や模擬試験等への参加に向けて、積極的に取り組まれた。 3: 課外や模擬試験等への参加に向けて、概ね取り組まれた。 2: 課外や模擬試験等への参加に向けて、あまり取り組まれなかった。 1: 課外や模擬試験等への参加に向けて、ほとんど取り組まれなかった。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた進学・就職模試、課外を実施した。昨年度より、課外の受講者が大幅に増えた(延117名延232名) ・生徒による進学・就職に関する情報提供の満足度が大幅に増えた。 進学関係: 57% 80% 就職関係: 57% 76.8% ・保護者による就職に関する情報提供の満足度が大幅に増えた。39.5% 77% 進学関係は昨年・今年ともに約80% 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習の見直し・改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 職場体験学習の在り方について十分見直し・改善が行われた。 3: 職場体験学習の在り方について概ね見直し・改善が行われた。 2: 職場体験学習の在り方についてあまり見直し・改善が行われなかった。 1: 職場体験学習の在り方についてほとんど見直し・改善が行われなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身による職場開拓の在り方を見直し、進路指導課・学年主導型のセルフプロセスとした。 ・実施時期を学校行事の多い10月から3月とすることで、生徒による事前研究、教師による事前指導を充実させた。 		
社会人としての資質の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物の期限厳守及び礼儀作法・協調性・人権感覚を身につけるなど、高校3年間を見通した進路指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 提出物の期限厳守や礼儀作法等について、十分指導された。 3: 提出物の期限厳守や礼儀作法等について、概ね指導された。 2: 提出物の期限厳守や礼儀作法等について、十分には指導されなかった。 1: 提出物の期限厳守や礼儀作法等について、ほとんど指導されなかった。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や提出物等の厳守に関する生徒自身の評価は87%前後であるが、昨年度からは約2%落ちている。 ・専門家を招聘して、社会人としての心構え・ビジネスマナー、対応等の基本を学習したが、継続的な指導の充実が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物の期限厳守については、もっと厳しく指導する必要がある。 ・学校の配布物が保護者に必ず届くための方法について再検討する必要がある。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会を開催し、教職員相互の情報交換を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 事例検討会を開催し、教職員相互の情報交換が充分に行われた。 3: 事例検討会を開催し、教職員相互の情報交換が概ね行われた。 2: 事例検討会を開催したが、教職員相互の情報交換があまり行われなかった。 1: 事例検討会が開催されなかった。 	4			<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会を適宜実施し、当該生徒の情報交換を行い、情報の共有を図るとともに、今後の指導の在り方について理解を深めた。
教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりのきめ細かな理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー及び外部専門機関等を効果的に活用して教職員研修を実施し、教育相談体制の質の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: スクールカウンセラー及び外部専門機関等を有効に活用して教職員研修を実施し、教育相談体制の質の向上を充分に図ることができた。 3: スクールカウンセラー及び外部専門機関等を有効に活用して教職員研修を実施し、教育相談体制の質の向上を概ね図ることができた。 2: スクールカウンセラー及び外部専門機関等を活用して教職員研修を実施したが、教育相談体制の質の向上をあまり図ることができなかった。 1: 教職員研修が実施されなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネータを講師に招いて、特別支援教育についての研修会を開催した。今後の指導の在り方等において示唆をいただき、生徒理解の一助となった。 ・スクールカウンセラーによる研修会を開催した。専門的な立場での助言等により、今後の生徒指導に役立てることができた。 ・特別な支援の必要な生徒に対しては、外部の専門機関との連携により、生徒の指導に当たった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、事例検討会が開催され、個別対応についても、教員が一人ひとりの生徒をきめ細かく掌握しており、教員相互の連携もよく取れている。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・面談週間を設置し、生徒一人ひとりのきめ細かな理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 面談週間を設置し、生徒一人ひとりのきめ細かな理解を十分に図ることができた。 3: 面談週間を設置し、生徒一人ひとりのきめ細かな理解を概ね図ることができた。 2: 面談週間を設置したが、生徒一人ひとりのきめ細かな理解をあまり図ることができなかった。 1: 面談週間が設置されなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2学期当初に面談週間を設定し、担任・教育相談課を中心に面談を実施し、生徒一人ひとりのきめ細かな理解を図ることができた。 ・生徒のアンケート結果を踏まえ、より一層の教育相談活動の啓蒙に努める。 「気楽に相談できる先生がいる」75% 「相談室や保健室が利用しやすい」66.7% 		
教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・生活全般・いじめに関するアンケート・個別面談・心理検査を実施し、生徒一人ひとりのきめ細かな理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活全般・いじめに関するアンケート・個別面談・心理検査を実施し、生徒一人ひとりのきめ細かな理解を十分に図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 生活全般・いじめに関するアンケート・個別面談・心理検査を実施し、生徒一人ひとりのきめ細かな理解を十分に図ることができた。 3: 生活全般・いじめに関するアンケート・個別面談・心理検査を実施し、生徒一人ひとりのきめ細かな理解を概ね図ることができた。 2: 生活全般・いじめに関するアンケート・個別面談・心理検査を実施したが、生徒一人ひとりのきめ細かな理解をあまり図ることができなかった。 1: 生徒理解のための種々の調査・検査・個別面談が実施されなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は入学時に心理検査を実施し、学校適応指導に役立てることができた。 ・生活全般に関するアンケートを、各学期の当初に実施し生徒理解に努めた。 ・いじめに関するアンケートを6月・11月に実施し、その結果に基づき、全教職員で指導の在り方について共通認識を図った。 ・担任・教育相談課を中心に個別面談を実施し、生徒一人ひとりのきめ細かな理解を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談やアンケート調査等、きめ細かな指導が行われている。 ・小規模校の利点であるが、他の学校に比べて、生徒一人ひとりを細かく把握している。 	A

	保護者への相談活動の周知	保護者へ教育相談に関するたよりの発行及びアンケートの実施を通して相談活動の周知を図る。	<p>4: 保護者へ教育相談に関するたよりの発行及びアンケートを実施し、相談活動の周知を充分に図ることができた。</p> <p>3: 保護者へ教育相談に関するたよりの発行及びアンケートを実施し、相談活動の周知を概ね図ることができた。</p> <p>2: 保護者へ教育相談に関するたよりの発行及びアンケート実施したが、相談活動の周知をあまり図ることができなかった。</p> <p>1: 保護者へ教育相談に関するたよりの発行及びアンケート実施されなかった。</p>	4	<p>保護者への教育相談に関するたよりを年2回発行するとともに、「佐波高通信」やPTA役員会等で、スクールカウンセラーの来校日や活動内容を報告し、情報発信に努めた。</p> <p>6月に保護者対象のアンケートを実施し、家庭での様子や悩み等の実態把握に努めた。</p>	<p>保護者へのアンケートが適切に実施されており、保護者との連携も十分取れている。</p>	A	
健康 安全	基礎体力の向上と集団行動の徹底	授業や体育的行事を通して体力づくりと人間関係づくりを積極的に促進する。	<p>4: 授業や体育的行事を通して体力づくりと人間関係づくりが促進された。</p> <p>3: 授業や体育的行事を通して体力づくりと人間関係づくりが概ね促進された。</p> <p>2: 授業や体育的行事を通して体力づくりと人間関係づくりがあまり促進されなかった。</p> <p>1: 授業や体育的行事を通して体力づくりと人間関係づくりが促進されなかった。</p>	4	<p>ほとんどの生徒が体育授業へ積極的に取り組んでいる。</p> <p>マラソン大会やクラスマッチなどの体育的な行事については、天候に左右されながらも全学年で熱心に取り組んだ。</p> <p>大半の生徒が良好な人間関係を作り上げている。</p> <p>今後、集団の中で人間関係の構築が難しい一部の生徒に対する指導の在り方を検討する。</p>	<p>全国的に、基礎体力の低下傾向が進む中、本校生徒の体力向上に対して、家庭と学校が連携して取り組む必要がある。</p> <p>集団にとけ込めない一部の生徒への対応を今以上に充実させる必要がある。</p> <p>儀式や集会等にふさわしい言動が取れるよう、指導の継続をお願いする。</p>	B	
		儀式や集会等において礼法指導を重点的に実施する。	<p>4: 儀式や集会等で礼法が十分指導された。</p> <p>3: 儀式や集会等で礼法が概ね指導された。</p> <p>2: 儀式や集会等で礼法があまり指導されなかった。</p> <p>1: 儀式や集会等で礼法がほとんど指導されなかった。</p>	4	<p>多くの生徒は場の様子を感じしっかりと礼法がとれる。しかし、注意・指導によりマナーやルールを守る行動はできるが、自律して行動することが難しい生徒が一部いる。</p> <p>様々な場面を利用し、場の空気を自ら感じ行動できるように指導していく。</p>			
	健康・安全に対する知識の体得と望ましい態度の育成	本校の実情に応じて性教育を効果的に実施する。	運動部活動の活性化を促進する。	<p>4: 運動部活動の活性化に向けて十分支援された。</p> <p>3: 運動部活動の活性化に向けて概ね支援された。</p> <p>2: 運動部活動の活性化に向けてあまり支援されなかった。</p> <p>1: 運動部活動の活性化に向けてほとんど支援されなかった。</p>	3	<p>卓球部が県ベスト8、野球部が5年ぶりに公式戦勝利、バスケット部が創部と同時に公式戦初勝利と、昨年度に比べ、大きく躍進した。</p> <p>ボクシングが山口県から国体強化指定を受け、リング等の施設も整い、来年度から部へ昇格し、本格的に始動する。</p>	<p>健康診断後の治療等についての指導が徹底しており、生徒が健康的な学校生活を送っていることがよくわかる。</p>	A
			「健康診断の記録」を有効に活用する。	<p>4: 「健康診断の記録」を有効に活用するための取組が十分に行われた。</p> <p>3: 「健康診断の記録」を有効に活用するための取組が概ね行われた。</p> <p>2: 「健康診断の記録」を有効に活用するための取組があまり行われなかった。</p> <p>1: 「健康診断の記録」を有効に活用するための取組がほとんど行われなかった。</p>	3	<p>健康診断・身体測定などの結果をもとに、健康相談・治療指示等の保健指導を十分行った。</p> <p>健康診断の記録表の記入は100%できている。</p> <p>上記により、保護者との連絡がスムーズになり、疾病の予防・治療に効果を上げている。</p> <p>保健室利用では身体面での利用が減少しているが、精神的な面からの利用が多くなってきている。</p> <p>生徒保健委員会は、健康記録の統計をもとに本校の健康問題に着目し、毎月保健だよりを発行して生徒に健康に関する情報を発信できた。</p>		
環境美化の推進	校内清掃活動を徹底する。	校内美化のために教職員と生徒が清掃活動に十分取り組めた。	<p>4: 校内美化のために教職員と生徒が清掃活動に十分取り組めた。</p> <p>3: 校内美化のために教職員と生徒が清掃活動に概ね取り組めた。</p> <p>2: 校内美化のために教職員と生徒が清掃活動にあまり取り組めなかった。</p> <p>1: 校内美化のために教職員と生徒が清掃活動に取り組めなかった。</p>	4	<p>日々の清掃活動や大掃除については計画的に行い、少ない生徒数で取り組んでいるが、アンケートでは、生徒の38.4%が「校内の掃除は行き届いている」と思っていない。</p> <p>教室内の整理整頓や庭・花壇の美化等に向けて、掃除分担の在り方も含め、掃除の徹底を図っていく。</p>	<p>校内のゴミ箱等がきちんと整備されており、全体として清潔な印象を受ける。</p> <p>生徒たちが、地域の行事において、積極的に清掃やゴミ回収のボランティア活動に取り組んでおり、地域の評価も高い。</p>	A	
			ゴミの減量化と分別指導を徹底する。	<p>4: ゴミの減量化と分別指導が徹底された。</p> <p>3: ゴミの減量化と分別指導が概ね徹底された。</p> <p>2: ゴミの減量化と分別指導があまり徹底されなかった。</p> <p>1: ゴミの減量化と分別指導がされなかった。</p>	3			<p>日々のゴミは少なく、また、ゴミ捨て場での分別もできている。</p> <p>教室内や廊下などに不用意にゴミを捨てる生徒が一部いるので、啓蒙活動を行い、継続した指導を行っている。</p>
			地域清掃活動を実施する。	<p>4: 地域清掃活動が十分に実施された。</p> <p>3: 地域清掃活動が概ね実施された。</p> <p>2: 地域清掃活動があまり実施されなかった。</p> <p>1: 地域清掃活動が実施されなかった。</p>	4			<p>計画した清掃活動が1回雨天のため実施できなかった。</p> <p>遠足を兼ねての清掃活動や残りの2回の活動では、生徒が積極的に取り組み、成果を上げることができた。</p>
業務改善	学校の組織等 教職員の連携協働体制の確立	<p>学年・分掌を超えて、支援・協力できる体制を確立する。</p>	<p>4: 他学年・他分掌の業務内容の共有が充分できて、積極的に支援・協力をすることができた。</p> <p>3: 他学年・他分掌の業務内容の共有が概ねできて、支援・協力をすることができた。</p> <p>2: 他学年・他分掌の業務内容の共有は難しかったが、要請に応じて支援・協力をすることができた。</p> <p>1: 他学年・他分掌の業務内容の共有がほとんどできなかった。</p>	2	<p>生徒指導教育相談委員会により、生徒の情報共有を図ることはできたが、内容によっては教員全員が参加する方が良いなど、同委員会の持ち方に改善の余地があった。</p> <p>教員室の座席配置替えにより、担任同士の情報交換は昨年度より進んだ。</p> <p>課長・学年主任がリーダーシップを発揮し、相互の意見交換をより一層進める必要がある。</p>	<p>会議に要する時間の短縮は、各分掌で早めに資料を出したり、提案者が教職員間での調整をしないといけないと難しい。</p> <p>業務量の均等化は、教職員全員が協力すれば、ある程度可能である。今後は、業務に負担を感じないような協力体制づくりが求められる。</p>		

日常的な業務	・運営委員会や各課会議を充実させ、職員会議等、全教職員出席会議の時間短縮を図る。	4:会議の内容・資料を事前に確認できて、出席することができた。 3:会議の内容・資料を当日に確認できて、出席することができた。 2:会議の内容だけを確認できて、出席した。 1:事前に何も確認できずに会議に出席した。	・事前に会議の資料を配布できずに、当日になることが多かった。 ・分掌内の会議は概ね勤務時間内に終了できたが、職員会議は議題により時間外になることがあった。 ・各分掌における活動等の見直し・改善のための会議は充実したものであった。	C
会議に要する時間の短縮		2		
勤務状況	・業務量の均等化を図り、一部の教員に仕事が偏らないような組織づくりを推進する。	4:教職員全体における業務量の均等化が適切に図られた。 3:分掌内における業務量の均等化が適切に図られた。 2:業務量の均等化にあまり図られなかった。 1:業務量の均等化が図られなかった。	・行事等の関係により、時期によっては一部の教員に仕事が偏ることがあった。 ・分掌内における役割分担の在り方、また、分担を越えた連携・協働体制の在り方を検討することが求められる。	
各分掌での仕事分担の見直し		2		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

昨年度に引き続き「人間関係づくり実践プロジェクト」の県指定を受けて、AFPY研修の充実を図るとともに、生徒対象のAFPY体験活動を3回実施した。1学年を対象に、秋吉台芸術村コンサート鑑賞・国立徳地青少年自然の家TAP体験を実施し、入学以降のスムーズな人間関係づくりに取り組んだ。また、全校生徒による遠足・校外清掃活動や野球応援を通して仲間・帰属意識の高揚を図った。担任及び教育相談課による全学年対象の個人面談週間の設置(4・9月)、1学年進路面談(6月)、2学年教育相談(1月)・進路面談(2月)、全学年対象校長面談(1・2学期)を実施し、生徒一人ひとりに対する面談・相談体制を充実させた。

今後は分掌を超えた情報共有を推進し、様々な角度からの生徒指導を充実させていく。遅進者に対しては個別対応を充実させるとともに、進路課外の充実により課外受講者も昨年度と比較して、大幅に増加した。個別指導が充実して5年ぶりに公立大学への合格者を出した。また、キャリア教育の一環として体験学習の充実を図り、1・2学年対象の校外職場見学研修・2学年対象職場体験学習を実施した。各教科年1回以上の研究授業を実施し、教科を越えた授業研究の推進にあたった。

7 次年度への改善策

【学習指導】 基礎学力の定着に向け、引き続き教科の枠組みを越えて授業研究を推進していくとともに、新学習指導要領を視野に入れ、中・長期的な視点に立った教育課程の検討を行う。学習環境を充実させるため、教室内の環境整備や授業規律の確立等について、教務・学年・教科が連携して指導できる体制づくりを行う。

【生徒指導】 生徒が安心・安全で充実した学校生活を送るにあたり、規範意識を向上させ、豊かな人間関係を構築できるよう、情報共有の方法をはじめ、日常的な注意や個別的な指導を行っても、なかなか改善がみられない一部の生徒への対策等、全教職員の連携協働体制の見直し・改善を図る。

【進路指導】 本校のキャリア教育の中核となる職場体験学習の在り方を、日数・派遣先を中心に、生徒の実態に応じて見直し・改善を図る。3年間を見通した進路指導をより一層充実させるため、進路情報の提供方法、課外授業・個別指導の在り方、個人データの継承方法等を検討する。

【教育相談】 いじめ・不登校等の未然防止、長期欠席等の学校への不応の防止、また、豊かな人間関係づくりに向けて、生徒一人ひとりへのきめ細かな状況把握と的確な対応を図るために、情報交換の中心的役割を担う「生徒指導・教育相談委員会」「事例検討会」のもち方を、さらに検討していく。

【健康安全】 健康の保持増進に対する意識向上のための保健指導を充実させるとともに、校内外の清掃活動、ゴミの減量化・分別等による環境美化を通して環境教育を推進する。運動部の活性化を図るために、校内外への広報活動の方法をより一層工夫する。

【業務改善】 分掌の統合、また、学年・分掌を越えた連携・協働体制の在り方、分掌内における役割分担の在り方について、生徒・教職員による各行事ごとのアンケート調査の実施・結果の分析など、PDCAサイクルを充実させて、再検討する。

- A:優れている・・・教職員の取組が優れていると認められる状況
 B:よい・・・教職員の取組がよいと認められる状況
 C:概ねよい・・・教職員の取組が概ね行われていると認められる状況
 D:要改善・・・教職員の取組に対して改善が必要な状況